第5回 小石原川ダムモニタリング部会 議事要旨

■日　時：令和3年12月23日（木）15：10～17：20
■場　所：小石原川ダム管理所1階説明ホール
■出席者：（委員）古賀部会長、馬場委員、広渡委員、松井委員、真鍋委員、山根委員
（事務局）6 名
（オブザーバ）朝倉市、東峰村
■配布資料：
・議事次第
・資料−１　出席者名簿
・資料−２　小石原川ダムモニタリング部会の設置について
・資料−３　小石原川ダムモニタリング部会 規約
・資料−４　小石原川ダムモニタリング部会の公開方法について
・資料−５　第4回小石原川ダムモニタリング部会 議事要旨
・資料−６　令和2年～令和3年小石原川ダムモニタリング調査結果等について

■審議内容等：

１．令和2年～令和3年モニタリング調査結果について

令和2年冬季から令和3年秋季にかけて実施しているモニタリング調査結果について事務局より説明した。調査結果についての各委員からの意見は次のとおり。

○流入水と放流水の水温の差は全体平均だけでなく、水温差が大きい期間は原因を記載すべきである。また、水温計が空中に露出していたことについても記載した方が良い。
○コア山の植栽樹以外で、自然に侵入してきた木本類は、その種類やどのようにして入ってきたかを把握できれば、今後の植生管理に活用できると思われる。
○植物の重要種の移植は調査区画内で個体数が増えるなど成功している種があるが、調査区画外でも増えていないか把握するとよい。
○ビオトープについて、現状では環境の多様性が見られない。多様性が向上するまでの暫定措置として、丸太をシェルターのように飛び石状に積み、丸太の下には粉砕した木材や枝葉を敷くという方法がある。両生類や昆虫類の隠れ家となり、土壌の改善にもつながる。
○ビオトープ周辺の植生回復にはかなりの時間を要する。まず土を作ることが重要である。
○ビオトープが何を目指すかにもよるが、周辺の湿地から植物の種を採取してビオトープに撒くという方法がある。
○ビオトープの利活用について地元が主体となって管理する方向が望ましいと思われる。

○一般の人に小石原川ダムに親しんでもらうため、ダム近傍に生息するクマタカの個性を紹介し、ＰＲするのは良い方法と思われる。

２．今後のモニタリング調査計画

令和４年度等の今後のモニタリング調査計画（案）について事務局より説明し、部会として内容を確認した。

また、気候、水象の影響で、試験湛水や整備の期間が当初計画よりずれ込んだことから、モニタリング調査を令和５年度まで実施する方針とし、継続して実施する調査内容を確認した。

調査計画等についての各委員からの意見は次のとおり。

○環境ＤＮＡ調査のうち、特異的解析については特定の希少種がみられなくなった場合などに種を絞って実施すると効果的と思われる。

以　　上